

事業所における自己評

公表: 令和4年3月3日

事業所名 高槻市立第2めばえ教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		広さは十分だが、個別対応が必要な場合のスペースを常時確保することが難しい。お子さまや保護者の方の動きを見ながら部屋の利用の仕方等を工夫し対応に努めていきたい。
	2	職員の配置数は適切である	○		
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		荷物準備や片付けがお子さまにもわかりやすいように置き場所を決め、お一人お一人のマークを付けている。その日の活動内容を写真で掲示するなど視覚支援を取り入れ、お子さまが自分たちで確認できるように工夫している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		時間を決めて次亜塩素酸(ドアノブ、机など)とアルコール(ままごとの玩具など)消毒している。常に換気し、加湿機能付空気清浄器を使用している。活動内容や天候に合わせて適温となるよう温度調整を行っている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		月々の保育士会議、職員会議にて療育の振り返りを行っている。目標設定や振り返りの仕方などについては検討が必要である。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		事業所評価の実施とは別に、(めばえ教室)独自のアンケートを毎年年度末に実施。保護者からいただいたご意見を参考に業務改善につなげている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		教室内に掲示している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	今後検討を行う。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		虐待防止などの研修を行っている他、毎年各テーマに基づいて研修を実施している。また、職員が各自で研修に参加した際には補助を行っている。
適	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		保護者には個別に聴き取りを行いニーズや課題について共通理解を持てるようにしている。多職種の職員がお子さまの姿を客観的に捉えた上で支援計画を作成している。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		月に1回発達検査を実施し、保護者に結果と検査からみえる課題について説明を行っている。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		職員間で個別支援計画の把握及び計画に沿った支援を共有していけるよう今後も取り組んでいく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
適切な支援の提供	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		保育士を中心に心理士、言語聴覚士、看護師が加わりチームで立案している。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		粗大運動、微細運動を含め様々な活動を取り入れ、発達全体を促すプログラムになるよう随時検討を行っている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		お子さまの状況を職員間で共有し、支援について共通理解を持って関わるよう作成している。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日の開室前に、リーダーを中心に全職員で打ち合わせを行い支援内容や役割分担について確認している。内容は日誌にも記載している。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		毎日の療育後に振り返りを行っている。全職員で共有し、日誌や個別記録に記載している。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		毎日の療育後の振り返りの際に記録をとっている。(長期の休室期間中には)定期的にケースカンファレンスを実施し、支援内容や役割について検討を行い、改善につなげている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		担当の支援職員が参画している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		保護者の要望や必要に応じて関係機関等と連携し、支援を行っている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		現在医療的ケアの必要な児はいないが、必要がある場合は保護者の了承のもと、関係機関と連携を行い支援する。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		現在医療的ケアの必要な児はいないが、必要がある場合は保護者の了承のもと、関係機関と連携を行い支援する。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者の要望に応じ、文書・面談・電話にて情報共有と相互理解を図っている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者の要望に応じ、文書・面談・電話にて情報共有と相互理解を図っている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	共に活動する機会はない。今年度は感染症拡大防止のため幼稚園等の職員の見学も控えてもらった。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		通室中に、お子さまの活動の様子を見ながら、家庭での様子を伺い、発達の状況や課題についてお話し確認を行っている。期に一度の発達検査を通して、発達の状況や課題について共通理解を持っている。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		プログラム化はしていないが療育中に保護者グループ懇談を行い保護者のエンパワメントを図っている。グループにおいて、テーマを設定し、言語聴覚士など専門職からの講義をおこなっている。(今年度は感染拡大防止のため中止したが例年は育児講座等を年に数回開催している。)	
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約説明会での説明と、通室の初回にオリエンテーションを行っている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者からの要望があれば通室日以外も電話相談や個別面談に応じ、助言や支援を行っている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者会ではないが定期的に保護者同士がグループで話し合える時間と場を設定し交流を支援している。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		相談や申入れについては速やかに対応している。療育中に対応が困難な場合は、電話する・個別で時間を設定するなどに対応している。また、長期休室期間については、対応可能な日時をお知らせしている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月「めばえだより」を発行し、療育内容や行事予定等をお知らせしている。保護者の方にそれぞれ配布し、教室にも掲示でしている。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報の取扱いについては十分注意するよう職員会議などで確認し、意識するよう声かけし合っている。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		個々のお子さまの様子に合わせてコミュニケーションの方法を工夫している。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		それぞれのマニュアルを策定している。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		地震、火災時の避難訓練を定期的実施している。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		入室前に保護者からの聴き取りと並行して、面接票への記載をお願いしている。入室後に再度看護師による聴き取りを行い状況を確認している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		毎日の振り返りで共有し、改善に向けて検討している。事例の状況や改善内容はデイリーに記載している
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		毎年、年度初めに虐待防止についての研修を行っている
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○	主に2歳児を対象としており、身体拘束は行わないため計画に記載していない。お子さまを取り巻く環境を整え、発達の観点から対応を検討し、支援を行っている。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。